定 期 火 山 情 報

第 １１ 号

平成１３年１１月１２日１０時
軽　井　沢　測　候　所　　発　表

火山名　浅 間 山

１．概況

１０月の浅間山は，９月に比べて火山性地震回数が増加し，期間後半はやや多い状態で経過しました。また，火山性微動が２４日に１回観測されました。噴煙活動については，噴煙量がやや増加したものの，とくに活発な活動は観測されませんでした。

１１月に入ってからも，地震回数は５日に６４回，そのほかの日も２０～５０回前後と，やや多い状態で推移しています。噴煙活動に大きな変化は観測されていません。

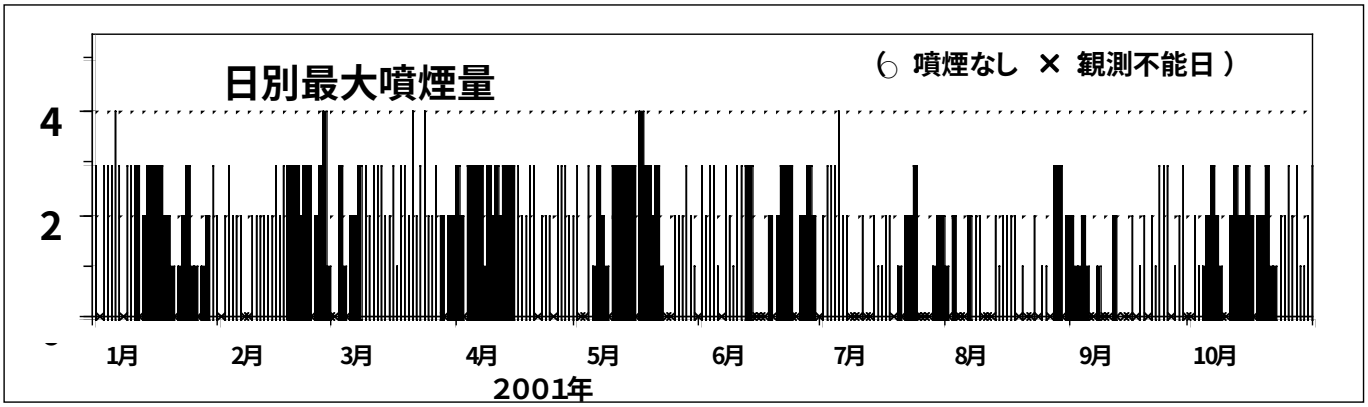
２．遠望観測

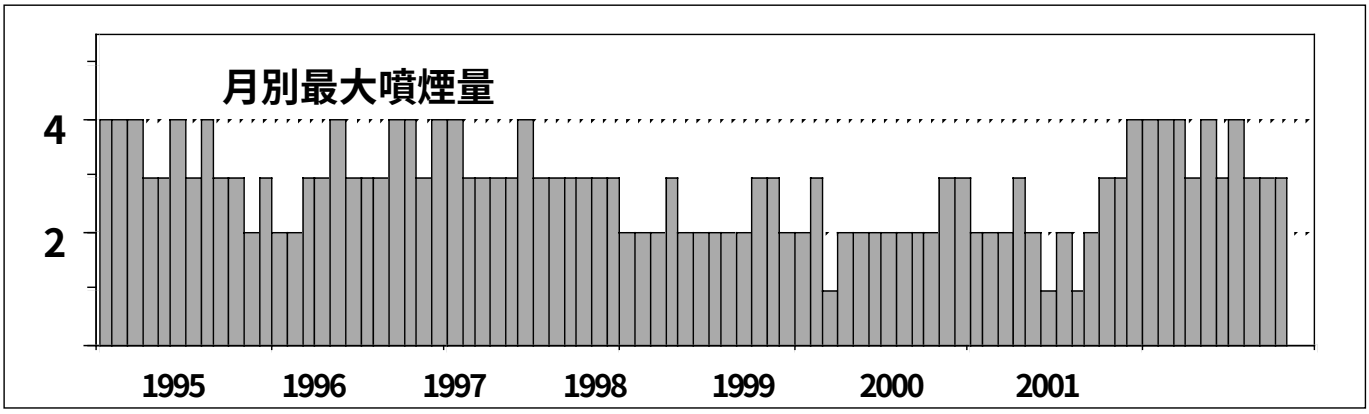
１０月は，悪天等のため山頂の見えなかった日が４日間ありました。

観測できた２７日間のすべてに噴煙が観測されており，今期間も噴煙なしの日はありませんでした。観測の結果（日最大値）は次のとおりです。

噴煙の色：すべて白色。
噴煙の量：３（中量）が７回，その他は２（少量）以下。
噴煙高度：７００ｍが１回(27日)，その他は６００ｍ以下。

今期間は，噴煙量３が７回（９月４回）観測されるなど，噴煙量の比較的少ない状態で経過していた７月中旬から９月に比べて，やや増加した状態となりました。





１０月の地震回数は，月合計でみると火口にもっとも近いＢ点では５２６回，基準観測点であるＡ点では１１３回で，９月の月合計(Ｂ点３０９回，Ａ点９９回)と比べてさらに増加した状態となりました。月合計回数が５００回以上となったのは，一時的な地震急増活動が繰り返し観測されていた今年４月以来となりました。

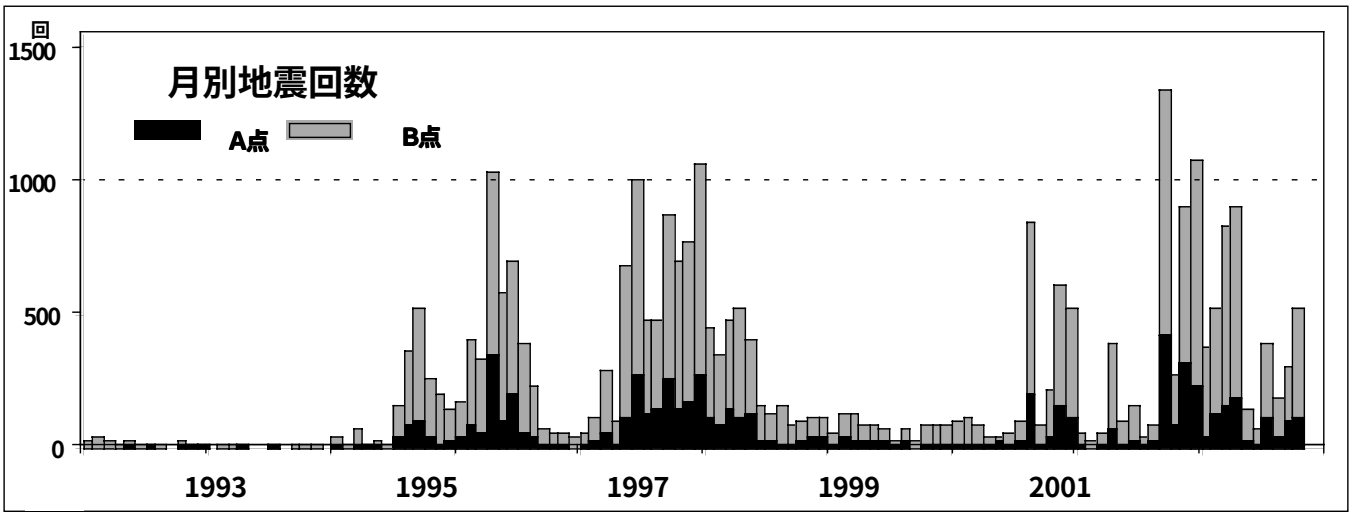
Ｂ点の日別回数でみると，期間の前半は９月とほぼ同様に１０回前後で推移したのに対し，期間後半になってやや増加した状態となり，２０～３０回前後の日が多くなりました。期間中，日別回数がもっとも多かったのは２９日の７９回でした。

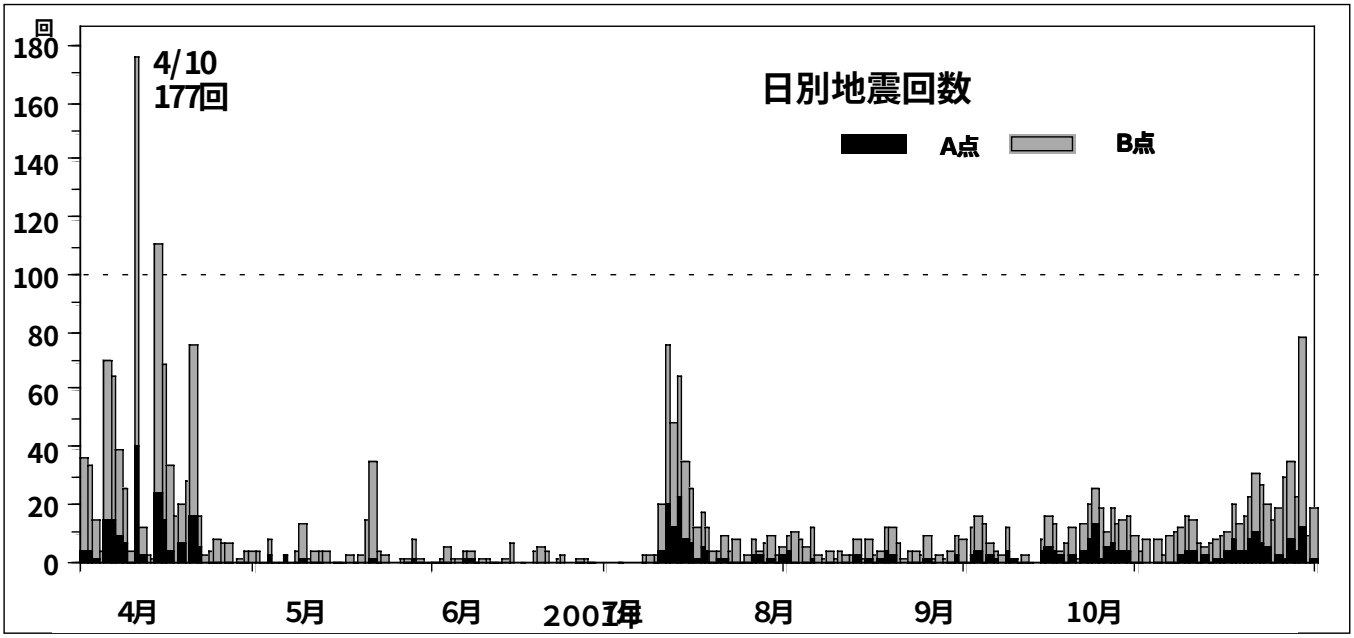
地震の大きさについてみると，期間後半に規模のやや大きい地震が２回観測され，基準観測点であるＡ点の最大振幅は，それぞれ ３.５ﾏｲｸﾛﾒｰﾄﾙ（１８日)， ２.０

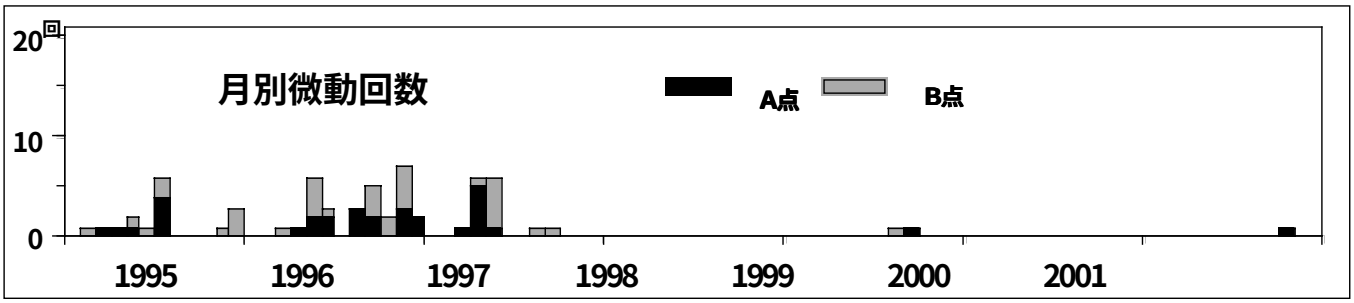
＜１０月の各観測点の火山性地震・微動の回数　（）内は微動回数＞

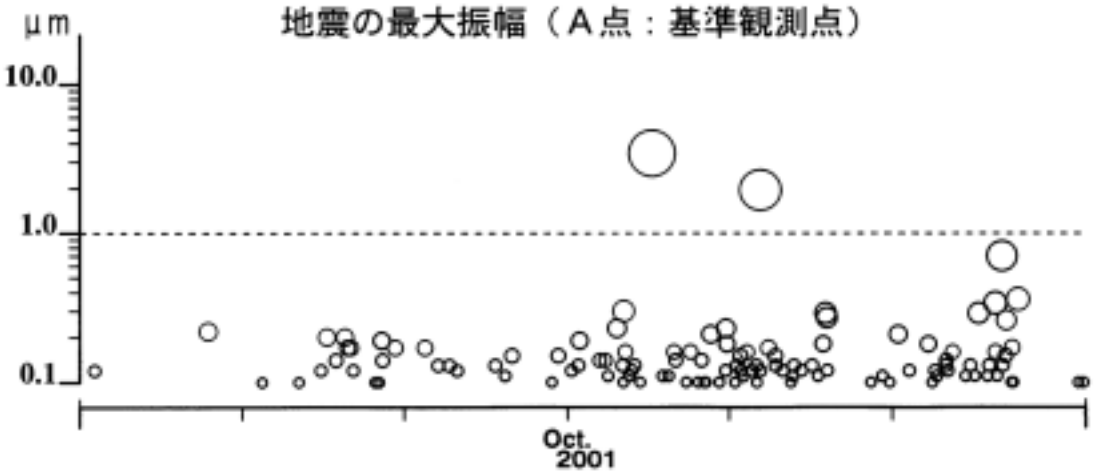
観　測　点	上　旬	中　旬	下　旬	１０月 計	(９月計)
Ａ　点〔SSE3.8km〕	16(0)	40(0)	57(1)	113(1)	99(0)
Ｂ点〔S　2.0km〕	90(0)	126(0)	310(1)	526(1)	309(0)
Ｃ点〔SE 3.2km〕	67(0)	106(0)	233(1)	406(1)	253(0)
Ｄ点〔N　3.2km〕	4(0)	6(0)	24(0)	34(0)	-(-)
Ｅ点〔NE 2.0km〕	69(0)	90(0)	255(1)	414(1)	-(-)

〔〕内は火口からの方向と距離









ﾏｲｸﾛﾒｰﾄﾙ（２１日）でした。１８日の地震について決定されたマグニチュードは，Ｍ１.８で，地震の規模としては２月３日のＭ１.７以来でした。これら以外は，すべて ０.７ﾏｲｸﾛﾒｰﾄﾙ以下の小さいものばかりでした。なお，震度１以上を観測する地震の発生はありませんでした。

火山性微動が２４日に１回観測されました。この火山性微動の震動継続時間は短く（１分２５秒），振幅も ０.３ﾏｲｸﾛﾒｰﾄﾙと小さいものでした。火山性微動が観測されたのは，1999年９月５日以来でした。

このように，１０月後半からは，地震回数がやや増加したことに加え，比較的規模の大きい地震や火山性微動の発生もあって，地震活動にやや活発な状態が観測されています。

４．現地観測

１０月１６日に浅間山山頂火口の現地観測を実施しました。６月の観測では火口内に噴煙が充満した状態だったため，火口内の状況を詳しく観察できたのは，昨年１０月以来となりました。

今回の観測で，火口底内に新しい噴気孔が確認され，昨年までと比べて噴気孔群の分布や規模が増大していることも確認されました。噴気活動による変色域の拡大も認められ，噴気地帯の地表面温度の最高は１４２℃で，これまで１００℃前後だった過去の観測値に比べて高い温度が測定されました。このように，山頂火口内の活動状況についても，昨年までと比べるとやや活発な状態となっていました。なお，火口周縁部では，今回も火山ガスによる強い刺激臭が観測されています。

このほか，ごく弱い噴気活動が続いている西前掛山北端噴気孔においての温度測定や，湯の平下の地獄谷においての火山ガス測定，湧水の水温・ｐＨ測定等を実施しましたが，いずれも従来の観測値と比べて大きな差異はなく，異常な変化は観測されませんでした。

１０月２３日と２６日には，浅間山山麓周辺の湧水の水温・ｐＨ等の観測を実施しましたが，これらについても異常は認められませんでした。